

安全データシート

作成: 1998年11月25日

改訂: 2024年 8月 8日

1. 製品及び会社情報

整理番号 : KF045-11
製品名 : フルピカフロアブル
会社名 : クミアイ化学工業株式会社
住所 : 東京都台東区池之端1-4-26
担当部門 : サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課
電話番号 : 03-3822-5180
FAX番号 : 03-3823-6830
緊急連絡先 : 平日 午前9時～午後5時 (電話番号03-3822-5180)
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康に対する有害性
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
発がん性 : 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分2(中枢神経系、血液系、腎臓)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2(膵臓、肝臓、腎臓)

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分2
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分2

上記で記載がない危険有害性は、「区分に該当しない」か「分類できない」。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 警告

危険有害性情報

- ・皮膚刺激
- ・発がんのおそれの疑い
- ・臓器(中枢神経系、血液系、腎臓)の障害のおそれ
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(膵臓、肝臓、腎臓)の障害のおそれ
- ・水生生物に毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。

【応急処置】

- ・皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。

- ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- ・気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- ・漏出物を回収すること。

【保管】

- ・施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・内容物、容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名／一般名：N-(4-メチル-6-プロパ-1-イニルピリミジン-2-イル)アニリン／一般名：メパニピリム

成分及び含有量：メパニピリム	40.0%
＜その他＞ エチレングリコール	7.3%
水、界面活性剤等	52.7%

化学式： $C_{14}H_{13}N_3$ / メパニピリム
 $C_2H_6O_2$ / エチレングリコール

官報公示整理番号： 化審法 2-230 エチレングリコール
安衛法 8-(2)-1603 メパニピリム

CAS No.: 110235-47-7 / メパニピリム
107-21-1 / エチレングリコール

4. 応急措置

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で十分に洗眼し、医療措置を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染した衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨て、製品が付着した部分を水又はぬるま湯で十分に洗い流し、石鹸を使って洗浄する。

吸入した場合：被災者を直ちに新鮮な空気のある場所に移動し、衣服をゆるめて深呼吸させる。多量に吸入した場合は医療処置を受ける。

飲み込んだ場合：被災者を安全な場所に移動し、直ちに医療措置を受ける。口の中に残っているものはぬぐったりして除去した後、多量の水を与えて吐き出させる。ただし被災者に意識の無い場合はものを与えたり、吐き出させたりしてはならない。

5. 火災時の措置

消火方法：初期の火災には、粉末、不活性ガス消火器、乾燥砂などを用いる。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

適切な消火剤：水、強化液、泡、不活性ガス、ハロゲン化物、消火粉末を放射する消火器等

使ってはならない消火剤：情報なし

消火活動上の注意：燃焼又は高温により有毒なガスが生成するおそれがあるので、呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：作業の際には保護具(8. ばく露防止及び保護措置欄参照)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、飛沫を口に入れたり吸入したりしないようにする。

環境に対する注意事項：流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起さないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

技術的対策:設備の密閉化、局所排気装置や全体の換気設備を設けること。

取扱い上の注意:秤量等の取り扱いには換気のよい場所で行い、漏れ、あふれ、飛散がないようにし、みだりに、粉塵を発生させない。皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないようにする。休憩場所には、手洗い、洗眼等の設備を設け、取り扱い後に手、顔等をよく洗う。使用後の空容器は、一定の場所を定めて集積し、廃棄上の注意に従い処分する。

火災・爆発の防止:通常の保管方法で問題無し。

接触回避:情報なし

保管上の注意:直射日光が当たらない冷暗所に保管し、異種物質の混入を避ける。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:設定されていない。

許容濃度:設定されていない。

エチレングリコール:TWA-STEL Ceiling ; 100mg/m³ (Aerosol only) ACGIH(2014年版)

設備対策:製造時の取り扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器を使用し、局所排気装置を併用する。

取り扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための施設を設ける。

保護具

呼吸用保護具:適切な防じん性マスクを着用する(JIS T8151、JIS T8152に適合する防じんマスク、有機ガス用防毒マスク等)

手の保護具:保護手袋を着用する(ゴム手袋等)

眼の保護具:保護眼鏡を着用する(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型等)

皮膚及び身体の保護具:保護衣(不浸透性)を着用する(作業着、帽子、保護服等)

衛生面:取扱い時は、食事をとったり、飲んだり、タバコを吸ったりしない作業着等に付着した場合は、速やかに取り替える

9. 物理的及び化学的性質

外観等	: 類白色水和性粘稠懸濁液体
臭い	: データなし
pH (原液)	: 5.5~8.5
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: データなし
引火点	: データなし(水溶性液体)
自然発火点	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限及び爆発限界上限/可燃範囲	: データなし
相対ガス密度	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: 比重1.06~1.11(20°C)
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分係数(log値)	: データなし
粘度	: 500~850mPa·s(20°C)
分解温度	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子性状	: データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	: 通常の保管環境下で安定
反応性	: データなし
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: データなし
混触危険物質	: データなし

危険有害な分解生成物 : データなし

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	: ラット LD ₅₀ > 5,000mg/kg	「区分に該当しない」
	マウス LD ₅₀ > 5,000mg/kg	
急性毒性(経皮)	: ラット LD ₅₀ > 2,000mg/kg	「区分に該当しない」
急性毒性(吸入:蒸気)	: データなし	「分類できない」
急性毒性(吸入:ミスト)	: ラット LD ₅₀ > 5.13mg/L	「区分に該当しない」
皮膚腐食性/刺激性	: ウサギ 中等度の刺激性	「区分2」
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: ウサギ 刺激性なし	「区分に該当しない」
呼吸器感受性	: データなし	「分類できない」
皮膚感受性	: モルモット 感受性なし	「区分に該当しない」
生殖細胞変異原性	: データなし	「分類できない」
発がん性	: 区分2に分類されるメパニピリムが製品中に0.1%以上含まれることから「区分2」とした。	
生殖毒性	: データ不足	「分類できない」
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分1(中枢神経系、血液系、腎臓)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)に分類されるエチレングリコールが製品中に1.0%以上、10%未満含まれることから「区分2(中枢神経系、血液系、腎臓)」とした。	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分2(膵臓、肝臓、腎臓)に分類されるメパニピリムが製品中に10%以上含まれることから「区分2(膵臓、肝臓、腎臓)」とした。	
誤えん有害性	: データなし	「分類できない」

12. 環境影響情報

以下の知見から、水生環境有害性(急性)は「区分2」とした。水生環境有害性(慢性)はメパニピリムの急速分解性及び生物蓄積性に関する知見がないことから「区分2」とした。

生態毒性 魚 コイ	: LC ₅₀ (96時間)	110 mg/l
甲殻類 オオミジンコ	: EC ₅₀ (48時間)	1.4 mg/l
藻類 緑藻類	: ErC ₅₀ (72時間)	6.5 mg/l
残留性・分解性	: データなし	
生体蓄積性	: データなし	
土壤中の移動性	: データなし	
オゾン層への有害性	: データなし	
その他	: 水産動植物に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意する。	

13. 廃棄上の注意

使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。容器の洗浄水等は河川に流さない。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

移送取扱いは丁寧に行う。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に。車両、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類	: クラス9(有害性物質)容器等級Ⅲ
国連番号	: 3082(環境有害物質、液体、n.o.s.)
国内規制	
海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。

陸上規制情報 : 道路法、消防法、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法律の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号 : 171

15. 適用法令

農薬取締法 : 登録番号:第19100号

消防法 : 非該当

労働安全衛生法

施行令第18条、第18条の2(表示、通知対象物質)

: エチレンジチコール (政令番号75)

安衛則第594条の2(不浸透性の保護具等、適切な保護具使用の義務)

: 皮膚吸収性有害物質 エチレンジチコール

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) : 非該当

毒物及び劇物取締法 : 非該当

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。

使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

引用文献:

- 1) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法
- 2) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
2019年6月 社団法人 日本化学工業協会
- 3) 農薬中毒の症状と治療法 第20版 2024年4月 農薬工業会
- 4) GHS文書 改訂第6版(2015年)
- 5) 資材メーカー提供「安全データシート」

作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大 阪 (年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	072-727-2499
	医療機関専用有料電話	072-726-9923
つくば (年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	029-852-9999
	医療機関専用有料電話	029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。

※ 弊社製品に関する問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の利用料(1件 2,000円)は弊社が負担いたします。